

令和4年度テクノアカデミー会津産業人材育成推進協議会議事録

- 1 日 時 令和5年2月21日(火) 午後1時30分～午後3時30分
2 場 所 テクノアカデミー会津 観光プロデュース学科第1実習室(2階)
3 出席者

(1) 委 員

- ・福島 一郎 (一般財団法人会津若松観光ビューロー 専務理事)
- ・佐藤 春幸 (一般社団法人福島県電設業協会会津支部 支部長)
- ・小町谷 英一 (福島県自動車整備振興会会津支部 支部長)
- ・猪俣 徹 (福島県立喜多方高等学校 進路指導主事)
- ・四家 邦博 (会津若松商工会議所 常議員)
- ・渡部 裕樹 (喜多方市 産業部商工課 副主査)
- ・助川 健哉 (独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構福島支部 福島職業能力開発促進センター会津訓練センター センター長)
- ・外島 義将 (会津地方振興局 企画商工部地域づくり・商工労政課 主任主査)
- ・山崎 辰哉 (テクノアカデミー会津 校長)

(2) 事務局

- ・斎藤 才子 (主幹兼副校長兼総務学生課長)
- ・鈴木 剛 (教務課長)
- ・長尾 真嗣 (観光プロデュース学科 学科長)
- ・高橋 儀幸 (自動車整備科 専門教務主任)
- ・佐藤 陽克 (電気配管設備科 教務主任)
- ・野中 政光 (経営企画担当 教務主任)
- ・島田 実 (事務担当)

4 議 事

[座 長]

- (1) 令和3年度産業人材育成推進協議会での意見及び意見に対する取り組みについて
- (2) テクノアカデミー会津地域貢献プラン及び事業実施状況について
- (3) 重点事業の取組みについて

上記3点について、事務局より説明願う。

[事務局]

ア 令和3年度産業人材育成推進協議会での意見及び意見に対する取り組みについて
資料1「令和3年度テクノアカデミー会津産業人材育成推進協議会議事録」を基に説明する。

昨年度はコロナ禍で当協議会は書面での開催となり、書面でいただいた意見が明記されている。2ページ「4 離職者等再就職訓練」の医療・介護分野については、准看護師養成科と介護職員養成科は引き続き実施する。IT分野コースは、WEBデザインビジネス科を今年度新たに設置し、WEBデザインソフトや画像編集ソフトの取扱い習得を目指

し、就職（ホームページ作成業務や事務、営業所等）に繋げるコースである。

3 ページ「5 学卒者訓練の入学充足率向上に向けた施策の重点化」は、高校訪問やオープンキャンパスでの指導内容の周知、SNS を活用した情報発信を行っている。

5 ページ「3 コロナの影響により、この2年間でリモート関連の進捗が著しく、これをおおいに活用したらいかがか」については、本校でもリモート授業を実施している。特に連休の中に授業がある場合に活用している。観光プロデュース学科については、VR 動画作成を行っているので今後も活用していく。

6 ページ「3 学生募集について、観光プロデュース学科は女子が多いということで、一部女性寮にして、女子の入校生を呼び込むような取り組みをするのはいかがか」については、今年度もアパート補助の予算要求等を行って検討している。「5 中高生の総合的な学習の中でテクノアカデミー会津の学生と交流の場を増やしてはどうか」については、現在、会津若松市で実施している「あいづっこ人材育成プロジェクト事業」の中で、会津若松市の小中学校の出前授業に参加している。今年度は8校の実績がある。その他、塩川中学校での職場体験の受け入れや地域の中高生との交流の場を設定した。

イ テクノアカデミー会津地域貢献プラン及び事業実施状況について

資料2「第11次福島県職業能力開発計画概要」、資料3「テクノアカデミー会津地域貢献プラン概要」、資料4「テクノアカデミー会津 令和4年度の基本的施策実施状況」を基に説明する。

資料2「第11次福島県職業能力開発計画概要」は福島県が策定し、職業能力開発施策を推進する基本方針である。実施期間は、令和3年度から令和7年度で昨年度から実施している。こちらを踏まえて資料3「テクノアカデミー会津地域貢献プラン」を策定している。第11次福島県職業能力開発計画に基づいて、テクノアカデミー会津が地域に貢献する内容で、期間は令和3年度から令和7年度の5年間である。実施目標は、5つ設定している。1つ目「ふくしまの復興を担う産業人材の育成」は、観光復興人材育成、再生可能エネルギーに関する成長分野に関する人材の育成を掲げている。2つ目「ふくしまの産業競争力向上のための人材育成」は、観光、建設設備、自動車整備について2年間の訓練を行い、人材を育成する。応募者確保に向けた取り組みを推進する。在職者訓練、オーダーメイド訓練を実施し人材育成を図る。3つ目「全員参加型社会の実現に向けた職業能力開発の推進」は、離職者訓練、在職者訓練、障がい者訓練など学卒訓練以外にも推進を行っている。4つ目「技術の継承と振興」は、技能五輪など各種競技大会への参加を推進する。今年度も11月に千葉県で開催された「技能五輪全国大会」に電気配管設備科の学生が1名、福島県代表として参加した。また、同じく電気配管設備科の学生で「技能五輪」の予選も兼ねた技能検定の冷凍空調設備技術の試験を受験している。また、地域の児童生徒にもものづくりの楽しさを伝える職場体験やあいづっこ人材育成事業、オープンキャンパスでもものづくりの体験を行いものづくりの楽しさの周知を図っている。最後の5つ目「職業能力開発に関する体制の整備」は、在職者訓練、離職者訓練についてIT関連コース、成長産業に対応したコースを設

定している。また、今回開催している産業人材育成推進協議会において、皆様から貴重な意見をいただいている。令和3年度の数値目標の中で達成したものは「2学卒者訓練の修了生の就職率（100%）」「6離職者等再就職訓練受講者の就職率（79.3%）」

「7離職者等再就職訓練修了者（35歳未満）の就職率（87%）」「8離職者等再就職訓練修了者（女性）就職率（86.0%）」である。目標達成が難しいのは、学卒者訓練の入学充足率である。後ほど、皆様からもご意見をいただきたい。

続いて、資料4「テクノアカデミー会津 令和4年度の基本的施策実施状況」をご覧ください。本校は、専門課程が「観光プロデュース学科」、普通課程が「電気配管設備科」と「自動車整備科」の合計3科が設置されている。現在、観光プロデュース学科の学生が16名、電気配管設備科の学生が27名、自動車整備科の学生が31名であり、合計74名が在籍している。定員に対して、在籍率は5割強である。2ページについて、「3入学試験の実施状況」は、現1年生の入学試験の実施状況である。観光プロデュース学科が7名、電気配管設備科が14名、自動車整備科が15名で合計36名が入学している。令和5年度生入学試験実施状況は、現在一般の3次試験まで終了しており、観光プロデュース学科が10名、電気配管設備科が15名、自動車整備科が16名の合計41名で、現時点では昨年度の入学者数は超えている状況。4次試験が3月23日（木）に実施される。ここで応募があれば人数が増える。「4学生就職内定状況」については、2年生40名が全員内定している。内訳をみると、県内が30名、県外が10名である。県外については、本社が県外にある場合が含まれている。今回、観光プロデュース学科の4名のうち3名は福島県の事業所に配属予定。自動車整備科についても3名のうち2名は福島県内に配属予定。「5入学状況」は、定員に達していない状況。自動車整備科も定員割れの状況が続いており、良い方策が見いだせていない状況である。

「2在職者訓練」は、テクノセミナーを実施している。企業在職者の方を対象とした向上訓練を実施した。今年度は資格取得のための資格試験対策コース、担当業務のスキルの習得を目的にしたスキルアップコースの2コースを設定。本校で設定しているレディメイド型のセミナーの他に、企業団体からの要望を受けて開催するオーダーメイド型も実施している。1月末現在で今年度の受講者は253名であり、昨年度の受講者は179名のため増えている。特にオーダーメイド型の受講者が多くなっている。

「3離職者等訓練について」は、離職し公共職業安定所から受講の斡旋を受けた方を対象に民間の教育訓練機関等で実施している。今年度の受講者の実績は281名（1月末現在）である。昨年度の受講者は240名のため、大幅に人数が増えている。内容としては、パソコンの操作、簿記の知識技術の習得、介護系は介護職員初任者研修の修了を目指し、介護職員として再就職を目指す。看護については、訓練期間が2年間となり、准看護師の資格を目指すコース。もう一つは、障がい者委託訓練事業である。今年度の実績は17名。昨年度の同時期は20名のため若干減少しているが、昨年並みの水準である。最後に「その他の取り組み」は、出前授業である「あいづっこ人材育成プロジェクト事業」の実施である。本校での訓練内容も含め、新たにプログラム内容を学校に提示し、希望の学校に実施している。今年度は8校351名が参加し、観光プロデュース学科、電

気配管設備科、自動車整備科の3科でプログラムを実施した。「2相談会の実施」は、オープンキャンパスを通常実施しており、今年度もこれまで5回実施した。6回目を3月25日(土)に予定している。これに加え別途「個別進路相談会」を開催している。参加人数は多くないが1月に2回、2月に1回実施した。「3各種イベントへの参加」は、2022きたかたおしごと広場を3年ぶりに開催した。本校を会場にもものづくり等を含めた仕事体験(電気工事の体験・レストランサービスの体験・キッズエンジニアの体験)を実施し、合計279名が参加した。

ウ 重点事業の取組みについて

観光プロデュース学科より、資料5『「ふくしま観光復興人材育成事業」実施状況について』を基に説明。

本県の観光産業は、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い大きなダメージを受けている。震災や疫病にも負けない担い手を育成する必要がある。そのため、通常のカリキュラムとは別に、特別事業として「ふくしま観光復興人材育成事業」を2年間実施してきた。「(1)観光商品の企画提案力の強化」と「(2)WEB・動画等の広告価値を高める情報発信手法の習得」は、企画力とデジタルを活用した情報発信に力を入れ、本校を卒業した学生が就職先や観光業界に入って使いこなせるように指導を行った。

スクリーンにて、学生が作成した映像作品を披露。1つ目は「アウトドアレストラン」である。3密を避け、屋外で活動するのが昨今のブームである。会津若松市の農家の畑を借用し、こちらの畑で収穫した野菜(ピーマン・ヤーコン)をキッチンカーで料理して、参加者をもてなす授業を行った。野菜の魅力を取れた畑で味わっていただく企画で、新しい観光集客の形を提案した。2つ目は「VR動画」である。東北電力株式会社に協力いただき「柳津西山地熱発電所」をVRで撮影した。一般的な観光資源以外でも誘客につながる。普段立ち入ることのできない場所をVRで撮影することにより、来訪できない方にも内部の様子をご理解いただけるようになる。360度カメラを使用し、学生が問題を出題するなど工夫をした。VR動画は、東北電力株式会社にも納品し、ツイッターなどで掲載いただいた。3つ目は「マターポート」である。喜多方市にご協力いただき、旧甲斐家蔵住宅の動画を作成した。静止画で住宅の内覧ができるような仕様である。360度カメラを使い、旧甲斐家蔵住宅の中を撮影した。特別に中に入り、普段見ることができない場所を撮影した。完成版には説明も加えながら、普段入ることのできない場所の魅力をもどどのようにしたら伝わるのかを勉強した。このように、デジタルの力と企画力を養成しながら、新型コロナウイルスや震災に負けない学生を育成していきたいと考えている。今後ともご協力をお願いしたい。

続いて、電気配管設備科より、資料6『「テクノアカデミーにおけるZEH技術者育成事業」を基に説明。

この事業は重点事業として、今年度から3年間の事業計画。2050年のカーボンニュートラルに向けた取り組みの一環として、国及び県においてZEH(ゼッチ)の普及を促進し、電気設備や衛生設備、空調設備などの住宅設備について総合的に施工できる

人材の育成を図る必要があるところから始めた。電気配管設備科では、ZEHにおける建設設備の技術を習得して、実際の施工現場で活躍できる実践的な技術者を育成するために最新の機材の導入やカリキュラムの充実に努めている。

「(1) 最新機材の導入」については、①蓄電システム ②HEMSシステム ③エコキュート ④ルームエアコンの4つを導入した。省エネルギー設備に関するものやZEHのHEMSシステムと言われる部分、エネルギー管理をする部分である。「(2) カリキュラム」は、学生向けの講習会を実施した。外部講師の実習や講演を中心に行った。「(3) 施設外研修の実施」は、会津若松市内の発電所見学や福島再生可能エネルギー研究所、企業見学、東京の展示会へ参加した。中通りの会社で再生可能エネルギー（地中熱）や電気の施工管理の会社を中心に見学した。令和5年度の計画は資料に無いが、1年次2年次それぞれ実習学科等でカリキュラムを組み、年間1,000時間の計画を立ててカリキュラムの充実を進める。また、今年度導入した設備を実習で活用し、在職者訓練等を行うテクノセミナーでZEH機器を活用したコースを実施する予定である。学生は今年度からスマートマスター資格の取得にチャレンジする。

[座 長]

補足として、昨年7月に当協議会の下部の組織「訓練科別懇談会」を別途開催した。各科に分かれて各業界の方に来訪いただき、カリキュラムや設備について意見をいただいた。

さらに、パンフレット「福島県立テクノアカデミー会津」、「テクノセミナーガイド2022」を基に当校について説明する。

「福島県立テクノアカデミー会津」の4ページ、5ページにテクノアカデミーの特徴が記載されている。1つ目は、県立の施設のため授業料が安いことがあげられる。短期大学校（専門課程）の観光プロデュース学科が2年間で130万円弱、能力開発校（普通課程）の電気配管設備科と自動車整備科は、2年間で70万円前後である。2つ目は、少人数制である。一人ひとりの学生に目が届く。3つ目は、年間訓練時間（1,400時間）の半分以上を実習としている。人数が少ないため、見ている実習ではなく、自分で作業をして覚える。また、なるべく最新の機材を導入している。4つ目は、各企業から講師を派遣いただき、学科実技を教示いただいている。5つ目は、就職に向けての就職支援を行っている。最近、若い方の早期離職の理由として、人間関係が多いため、就職支援講座Ⅲでは交流分析法を行う。客観的に自分自身がどのような傾向があるかを知る講話である。7ページには、学生寮の紹介がある。男性だけで、25部屋ある。部屋代は取っていない。費用としては、食事代27,000円とその他光熱水費（5,000円～9,000円程度）である。8ページ以降は各科の紹介となっている。なるべく県内への就職を指導しているが一部は県外へ就職する。令和3年度卒業生のデータであるが、観光プロデュース学科は約7割が会津である。電気配管設備は会津が約6割、中通り約2割である。自動車整備科は、ディーラーが中通りに集中しているため、中通りが約5割となっている。

続いて、「テクノセミナーガイド2022」について説明する。先ほど説明をしたテクノセミナーの実施内容である。受講料を徴収して行っている。企業の希望により実施する

オーダーメイド設定コースが今年度非常に伸びた。レディメイド型は本校が設定したコース。

以上補足である。ここまでで、質問等があればお願いしたい。

[委員]

資料4の3ページ目「2 分野ごとの主なコース」内の②自動車整備/機械・建設機械整備作業（エンジン分解組立編）は具体的にどのような内容なのか。

[事務局]

建設機械技能検定2級、3級の資格試験は学科試験、実技試験があり、実技試験の中の科目にエンジン分解がある。その他、溶接溶断、油圧ホイスの分解等がある。資格取得の一部としてスキルアップを図る。2級、1級の2つのコースで行っている。

[座長]

補足として、今年度は2級が10名、1級が7名受講している。

[委員]

オーダーメイド研修の受講者数が伸びたとのことだが、具体的に新たに用意した講習があつて増えたのか、全体的に受講者数が増えたのか、増えた理由を教えてほしい。

[座長]

オーダーメイド研修は、企業の希望に応じて行っている。また、様々な企業を訪問し研修内容の希望を聞いたうえで研修の設定を行った。さらに、会津産業ネットワークフォーラムの会員企業の新入社員研修や業界団体の研修、産業サポート白河のシーケンスに関する研修など、様々な研修を実施した。加えて、サービス業向けにクレーム対応研修を行い33名（2回合わせて）の参加があつた。その他、中堅社員向けの研修やシーケンス研修を実施した。企業において従業員向けの研修への意欲が高まってきた結果、増えたのではないかと考える。

[委員]

パンフレット「福島県立テクノアカデミー会津」の5ページ目下部の「就職に向けた本校の支援プログラム」の就職支援講座の内容について教えてほしい。一方的に講話を聴く形式なのか。

[座長]

職業講話Ⅱについては、福島民報新聞社にご協力をいただき、就職活動や就職してから役立つ情報の読み方を講話いただく。こちらは一方的にお話いただく形式である。就職支援講座Ⅰ・Ⅱについては、ロールプレイ形式で実施する。実際に学生が面接を受ける様子をビデオに撮影し、全員で確認をして悪い点等を見直し、学生の身になる講座である。

[委員]

今の若い人は「言われないとやらない」「分からないことも聞きに来ない」など、人間関係の問題等がある。そのようなところを直す講座なのかと思った。

[座長]

専門の技術だけではなく、人に対応する接遇や社会人基礎力を身につける講座であ

る。

[委員]

あいさつもできない人もいる。そこから教えなければいけないのかとガッカリする。

[座長]

ある企業から聞いた話であるが、仕事をしながら音楽を聴いていた社員がいたとのこと、そのようなところから教えなければいけないと認識した。当校としても、仕事に対する姿勢や人に対する姿勢、報連相などもしっかり身につけるように指導していきたい。

企業にどのような人材が欲しいかと聞くと、まず素直な人、接遇ができる人、専門技術が身につけている人のような要望が多い。

[委員]

「わからないことを聞かない」「こちらからどうしたの?」と聞かないと言わない者がおり困ったことがあった。

[座長]

自ら話すことが苦手な子も多く、そういった部分も指導していきたい。

[委員]

一人でゲームをして育っている子が多いので、基本的に話をしたくない。ここ5年ほど見てみると報連相ができない、挨拶ができない人が多い。そこから教えなければいけないのかと思う。あまりにも社会人としての基礎能力がないと保護者に連絡をしたこともある。自宅でも色々教えてもらわないと困る。学校で教わる事よりも、社会人基礎力が大事だと思われる。

実際に授業するときは、挨拶しながらイキイキとしているのか。

[座長]

科によって異なるが、特に自動車整備科は一列に並んで「ありがとうございます」等のあいさつ練習を必ず行うようにしており、形を身につけてから心を入れるようにしている。整備士においても修理ばかりではなく、修理した後お客様に説明しなければならないところも多いため、挨拶も指導している。

[委員]

若い人が何を考えているのかも分からず、困ることがある。難しいところもあるが、引き続き指導をお願いしたい。

[委員]

寮の話があったが、今現在何名入寮しているか。

[座長]

今年度は18名である。

[委員]

1人部屋か。交流といった面ではどうことをしているのか。

[座長]

ここ2~3年はコロナ禍で、食事時も話さないように指導をしている。同一方向を向いて、またパーテーションを設置している。

[委員]

同じ寮に住んでいても会話はしない状態か。私自身も寮生活の経験があり、寮でコミュニケーション能力が鍛えられた。そのような境遇が今の寮にあるのか気になった

[座長]

朝の掃除はグループに分かれて行い、1年生が2年生に教わりながら行っている。年に何度か行事があるため、その時は交流している。コロナ禍になり、他の寮生の部屋に入らないように指導をしている。そのような意味では交流は少ない。昨年卒業した学年は入学時からコロナ禍が始まったので、人とのコミュニケーションは確実に少なくなった。

[委員]

お風呂は一緒か。

[座長]

一緒だが、密を避けるため1度に入る人数を制限している。3名程度。本来であれば大いに交流して人間関係を築いて欲しいところである。

[委員]

細かいようであるが、家に入るときはタオルを入れて入っていたが、寮では「ダメだ!」と言われた。そのような社会的に揉まれるようなことを何度もこなしていけば、良くなるのではないかと思う。今はそのようなことが減っている。

[座長]

それは確実に少なくなっていると思う。来年度からは徐々にコロナ禍の制約も変わってくるため、人と関わる機会も増えて来るのではないかと思う。ここ2~3年はそのような機会は確実に少なくなってきたと思う。

[委員]

今の話の中で、コロナ禍の制限が徐々に緩くなっていくとのことだが、学校ではどのようなところから緩和していくかなど決めたものはあるか。卒業式ではマスクはしない等。

[座長]

現時点では、卒業式は昨年同様に来賓者も少人数とし、保護者も最大2名まで、客席も間隔を空け、マスクも全員する方向で進んでいるが、国が指針を出したので何か変化はあると思われる。学校は、根拠を明確にしないと様々なご意見をいただくので、国や県の通知や教育庁の様子などを踏まえて、適宜適切に変更していく。

[委員]

ちなみに、高校はどうか。

[委員]

文部科学省の通知を受けて、今年度の卒業式は職員、卒業生、在校生はマスクはなしとなった。強制ではないため、マスクをしても良いこととなった。来賓の方はマスク着用、保護者は最大2名までとし、マスクのご協力はいただく。当日会場での受付の際に検温シートを提出してご入場いただく制限はある。喜多方高校としては、教育活動を元

に戻そうとする流れがあり、文部科学省から3月末までは規制をして、4月以降に規制を緩くするという方針もあり、マスクを外して授業を受けるなど徐々に緩和していくのではないかと考える。

[委員]

パンフレット「福島県立テクノアカデミー会津」の8ページ目に、観光プロデュース学科の取得可能な資格とあるが、国内旅行業務取扱管理者を学生のうちから取得する者はどのくらいいるか。

[事務局]

2年生は1名、1年生は2名合格した。全国的な合格率は約3割と言われている。

[委員]

資格を取得した学生の就職先はどのようなところがあるか。

[事務局]

2年生は主にホテルである。1年生はこれからである。

[委員]

非常に強みだと思う。今は大手の旅行会社で旅行商品を作ることがほとんど減ってきた。一般の方はインターネットを使い、自分で予約するようになった。そのような状況から、地元のホテル旅館、観光協会、公共交通機関等で旅行商品を作る機会が増えてきた。非常に有効な資格だと思う。

[座長]

続いて、(4) 学生募集について、事務局より説明願う。

[事務局]

ア 学生募集について

資料4「テクノアカデミー会津 令和4年度の基本的施策実施状況」2ページを基に説明する。

先ほど説明をした通り、来年度の入学予定者数は今年度よりは5名多い。また、「5入学状況」の通り、平成30年度の48名を最高にして、徐々に減少傾向にある。本校としては、高校訪問を中心に学校の先生方に周知を進めている。今年度は、会津地区を中心に5回(延べ182校)高等学校を訪問。訪問の際には、説明用のチラシや内定先の企業名を入れた顔写真のプリントを準備し説明している。さらに、会津地区、中通りの実績校については、高校3年生または高校2年生全員にパンフレットを配布し、周知を図っている。

加えて、オープンキャンパスは、今年度5回実施している。3月25日(土)に6回目を実施予定。参加者は、延べ98名(引率者含む)の内、高校生は65名である。オープンキャンパスに参加した生徒が多く受験するため、今年度は5月から6月にかけて集中的に広報活動を行った。

その他、校内行事や授業の様子をSNSで随時情報を発信している。また、直接応募に

結びつくかはわからないがハローワークの職員、会津地区市町村職員の施設見学会を実施した。ハローワークの職員が10名程、市町村職員が6名参加した。参加人数は多くないが、徐々に関係機関から周知を図っていききたい。さらに、先日2月14日(火)に喜多方市様と包括連携協定を締結し、観光プロデュース学科を中心に、本校と連携できるような内容を今後行っていく。現状学生募集に関しては、本校でやれる手立は行っているが、会津地区の高等学校も次年度から合併があり、生徒数が減ってきており厳しい状況が続いている。

[座長]

補足として、特に令和に入ってから厳しい状況が続いており、定員を満了したのが令和3年の自動車整備科の20名。それ以外は、定員を満了していない状況が続いている。公共の施設のため費用対効果が問われており、このような状況が続くと存在意義自体が問われる事態となる。本校として考えられるPR活動や就活を行っているが、改善されない状況である。子どもの数が減少しているところが大きいですが、就職状況もコロナ禍ではあるが、高卒でも求人倍率が高く、大学にも入りやすくなっている。様々な状況が絡んでいると思われる。すぐに改善する対策はないかもしれないが、引き続き取り組んでいきたい。せっかくの機会であるので、各業界の立場で募集についてヒントをいただきたい。業界の状況や求職求人の情報、その他何かあれば5分程度でお願いしたい。

[委員]

観光業界について全体的に話をすると、コロナ禍で離職された方が非常に多い。そのような中で、これからアフターコロナで急激に観光客が入ってくることが予想され、現在でも人手が足りないところもある。このタイミングでどのように手を打てるかが大きいと思う。また、先ほども申し上げた通り資格を持っていることは非常に強いので、観光業界ではそのような人材は欲しがっている。ちなみに、弊社でも今年度の卒業生1名、2年前に卒業された方1名を新年度採用することに決めた。ぜひ活躍していただきたいと思う。

[座長]

ホテル旅館等、客が戻ってきているような状況であるのか。外国人の状況はどうか。

[委員]

インバウンドも戻ってきている。そのため、英会話などもできると良い人材になる。

[座長]

今、インバウンドで来ている国はどこか。-

[委員]

台湾が多い、特に会津若松市はタイも多い。

[委員]

電気建設業は高齢化が進み、若い人が入らない状況が続いている。業界としては人手不足で、若い方に地元で就職をしてもらえるように、支援いただければ幸い。最近の若い方を見ていると2種電気工事士までは取れるが、就職後に1種電気工事士が取れない。また、入社してもコミュニケーション能力が無く、報連相が出来ない事も多く、

そのあたりを加えて指導いただければありがたい。

[委員]

若い方に入社してもらいたい状況にある。若い方はディーラーへの就職が多く、町工場は難しい。しかしながら、町工場として新入社員を雇った場合に、社会人基礎能力も含めて技術指導等の教育体制が整っていない。自分の仕事で手一杯のため、新入社員まで手が回らない状況にあり、受け入れ側も難しいところがある。また今後、自動車業界はデジタル化が進んでくる。自動車もガソリン車が生産中止となり、電気自動車や水素車に変わってくると思われる。さらに、車検の更新作業についても、陸運支局に行かなくても自分のところで手続きが可能になる。その分、業務量が増え、てんてこ舞いになることが予想される。

話題が変わるが、高校野球で今年会津北嶺高校がとても強かった。なぜだろう？と話題になり、確認したところ自動車科で学ぶために沖縄の学生が入学したようだ。貴校パンフレットに会津北嶺高校からテクノアカデミー会津に入学している学生もいるため、会津北嶺高校の例を参考のするのも良いのではないか。

[座長]

情報提供に感謝申し上げます。

高校生の進学進路の傾向、専門学校に行くような生徒がどのように情報を集めているのかを教えてほしい。

[委員]

本校は統合して2年目である。5クラスあるが、全体の人数は減っている。特色あるカリキュラムということで、今年度2年生からキャリア探求コースが設置された。卒業後に就職を希望する生徒(1クラス)が2年生からそのクラスに分かれる。進路希望の動向としては、全体の20%が就労希望、大学進学希望20%、残りが専門学校となっている。来年も同様の傾向である。学校としては、多くの情報を提供しているが、最終的に決めるのは生徒本人や保護者である。生徒が進路を決める際には、情報が少ない中での選択にならないように情報提供を心がけている。また、企業へのインターシップや大学専門学校の先生方を招いての授業を年に1度は必ず設定している。先ほど、SNSで情報を発信していると言っていたが、今の高校生に一番響くのはSNSである。今の生徒は、テレビも新聞も見ない傾向にある。スマートフォンからの情報が一番多く、動画を見ていることが多い。そこから得た情報が生徒の世界観を作っていると思う。学校の中でも情報を出しているが、それ以上に家庭での時間の方が長いので、そこで知り得る情報がどれだけあるかによって最善の選択ができると思う。卒業生の動向を見ると、入社してミスマッチが起き企業に迷惑をかけたたり、大学専門学校を中退してしまうこともある。反省点として、学校として十分な情報提供をしているつもりだが、本人が自分のベストな選択ができなかったのだと思う。進路に関する情報は、学校からの情報提供と本人が自ら情報(SNS等)を仕入れることがあると感じる。

[座長]

インターンシップは何日間行っているか。

[委員]

11月上旬頃に3日間行っている。

[座長]

本校でもインターンシップを行っており、各科で違うので何日くらいが良いのかと思います。質問した。感謝申し上げる。

[委員]

整備士の求人を出しても応募者が来ない状況。新入社員を雇っても定着率が悪い。若い方の車への興味が減っているように感じる。また、一般的な電話（受話器）の取り方が分からない人がいた。スマートフォンしか使わないため、そこから教えないといけない。

[委員]

高校生向けに就職説明会を実施した。参加した生徒のアンケート結果によると、就職先を選ぶときに、同じ高校の先輩が就職していることや知り合いがいる等、就職した後の安心感を重要視していると感じる。テクノアカデミー会津の卒業生も様々なところに在籍しているので、卒業生の情報があると良いのではないか。入学者数が減少しているが卒業生数を積み重ねると、地域内での繋がりができ就職へも繋がり、貴校の入学のハードルも下がるのではないか。

また私自身、大学入学の際に学びたい学部に進学したが、学外（アルバイト・サークル）も含めて学生生活だと感じる。学外の活動もサポートできると良いのではないかと思う。サークル活動は人とのつながりが大きいので、大人がどこまでサポートできるかわからないが、近隣の会津大学との交流の機会を設けるなどしてはどうか。勉強以外の部分にも目を向けて行くと良いのではないか。

[座長]

離職者等訓練に関して役割分担して、本校は3か月、ポリテクセンターでは半年のプログラムを実施している。募集活動等について御意見を伺いたい。

[委員]

本日出席の皆様にも、様々な場面で協力をいただいているが、この場をお借りして御礼申し上げたい。ポリテクセンター会津は、厚生労働省の所管の独立行政法人として、福島県内3つの施設の一つとして運営している。

座長からも説明があったが、県や民間でやらない分野の訓練をしている。在職者訓練は電気・機械・建築系の訓練を行っている。電気部分については、テクノアカデミー会津の訓練と重なるところがあるが、離職者訓練はIT系ものづくり系など役割分担をして訓練している。

学生募集の話だが、離職者訓練は、昨年度厳しい状況であった。このような立場でアドバイスというもおこがましいところがある。会津の公共施設を廻っているが、ほとんどの施設で貴校のポスターを見かけるため、ご苦労されているのは感じている。当機関（ポリテクセンター会津）は、離職者訓練を受けた方を供給する立場だが、60代以上が3割、50代が2割で、若い人が離職者訓練に入ってきていない状況にある。業界の

皆様にご迷惑をおかけし申し訳ないと思う。

当機関も募集には苦勞している。先ほど、入社後のミスマッチの話があったが、再就職する前に半年間私どもの訓練に入っただいて、ものづくりを体験して次の職につなげていただきたいと考えて、会津工業高校を訪問し、公募内容について説明を行った。また、在職者訓練は新しい機能として取り組んでいる。機械・電気・建築系で働きたい方には、訓練して送り出すという取り組みを行っている。また、企業から在職者訓練したいという話があれば、オーダーメイドで対応したいと考える。

[座 長]

県全体や会津地方の産業について、また県外への人材の流失等を含めて情報提供願う。

[委 員]

会津地方振興局では、若者の定着のため会津地域の企業を紹介した冊子を作製している。高校生のインターシップに合わせて取材を行っている。会津地域の高校生の地元定着率は福島県の中でも低い傾向にある。原因は分かっていないが、高校生の都会への憧れや技術系の学校出身者が就職先として県外を選ぶ傾向にある。

また、建設業や製造業は人手が足りない。高校の新規求人を出しても応募者がいない状況で、面接までいたらない。振興局としては、地元企業の仕事内容を知らない学生への周知として、企業名と仕事内容が分かる冊子を出し続ける必要があると考える。来年度については県議会で審議しているところであるが、引き続き事業を続けたい。県全体としては、知事の発表の中で、小中学生に仕事を体験してもらおうという発言があった。詳細はまだ不明だが、企業の皆様にご協力をお願いする機会が出てくると思う。

若者が地元就職すると地元が活性化すると考えている。観光プロデュース学科で行っている地元密着した取り組みは話題性もあり、学校のPRに繋がると思う。

さらに、地域観光として、只見線の再開に伴うPR活動が沿線自治体の課題である。沿線の自治体と学生が協力して只見線のPRを行ってはどうか。只見線関係は、奥会津地域で予算がつきやすく、連携ができれば学校のPRにも繋がるのではないか。また、行政の取り組みとして地域をPR発信するより、地域に学生が入り込み、発信していくことが同世代に響き、興味関心に繋がるのではないか。振興局でやっている企業冊子作成等、地道なPR活動の積み重ねが、後々効いてくるように感じる。

[座 長]

貴重な御意見に感謝申し上げたい。

それでは、議事は以上で終了する。

[事務局]

その他、皆様から改めてご質問ご意見はあるか。

ないため、令和4年度テクノアカデミー会津産業人材育成推進協議会を終了する。